

# 教育は いま

第17号

## 研究テーマ

**応用力をはぐくむ授業の創造**  
**～各教科等における言語活動の充実を通して～**  
第2年次

仙台市立東二番丁小・片平丁小  
・五橋中との共同研究

仙台市教育センター所長 熊谷 和彦

新しい学習指導要領のペースメーカーはと問われれば、それは「習得」「活用」「探究」であり、その一丁目一番地はと尋ねられれば、「言語活動の充実」と答えることができるでしょう。

「言語活動」は、知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤とされ、言語がもつ「伝達」「思考」「記憶」「行動の統制」を機能させながら、思考力・判断力・表現力等の応用力をはぐくむという新たなアプローチが、今求められています。

教育センターでは、昨年度から続けてきた五橋中との共同研究に、今年度は東二番丁小と片平丁小を加え、効果的な言語活動の在り方について授業実践を通して探ってまいりました。この取組を通し、小中9年間で応用力育成を目指す子供像や「応用力」育成のための「思考」から始まり「再考」を経て再度「発信」に至る学習プロセス、言語活動を通して「考える活動」の方法・手だて、言語活動の充実を通して応用力をはぐくむ授業づくりのポイント等、一定の研究の方向性を見いだすことができました。この報告書は、そのまとめの一端です。

各校におかれましては、この報告書を、日々の授業で展開される言語活動の充実に資するものとしていただければ幸いです。

仙台市教育センター

# 研究の概要

各教科等において、教科目標を達成するための手段・方策として「言語活動の充実」を図った授業を展開しながら、児童生徒の応用力をはぐくむ。

## 設定の背景

- ◇改正学校教育法[学力]の規定
- ◇中央教育審議会答申
- ◇学習指導要領[言語活動の充実]

- ◇仙台市標準学力検査及び全国学力・学習状況調査の結果から
- ◇教育施策：確かな学力育成プラン

- ◇これからの「知識基盤社会」で求められる力
- ・生きる力 ・キーコンピテンシー

## 研究の基本的な考え方

### <応用力>

基礎的・基本的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等。

### <授業の創造>

一人一人の教師が日々の授業づくりを通して、実践的に取り組む。

### <言語活動の充実>

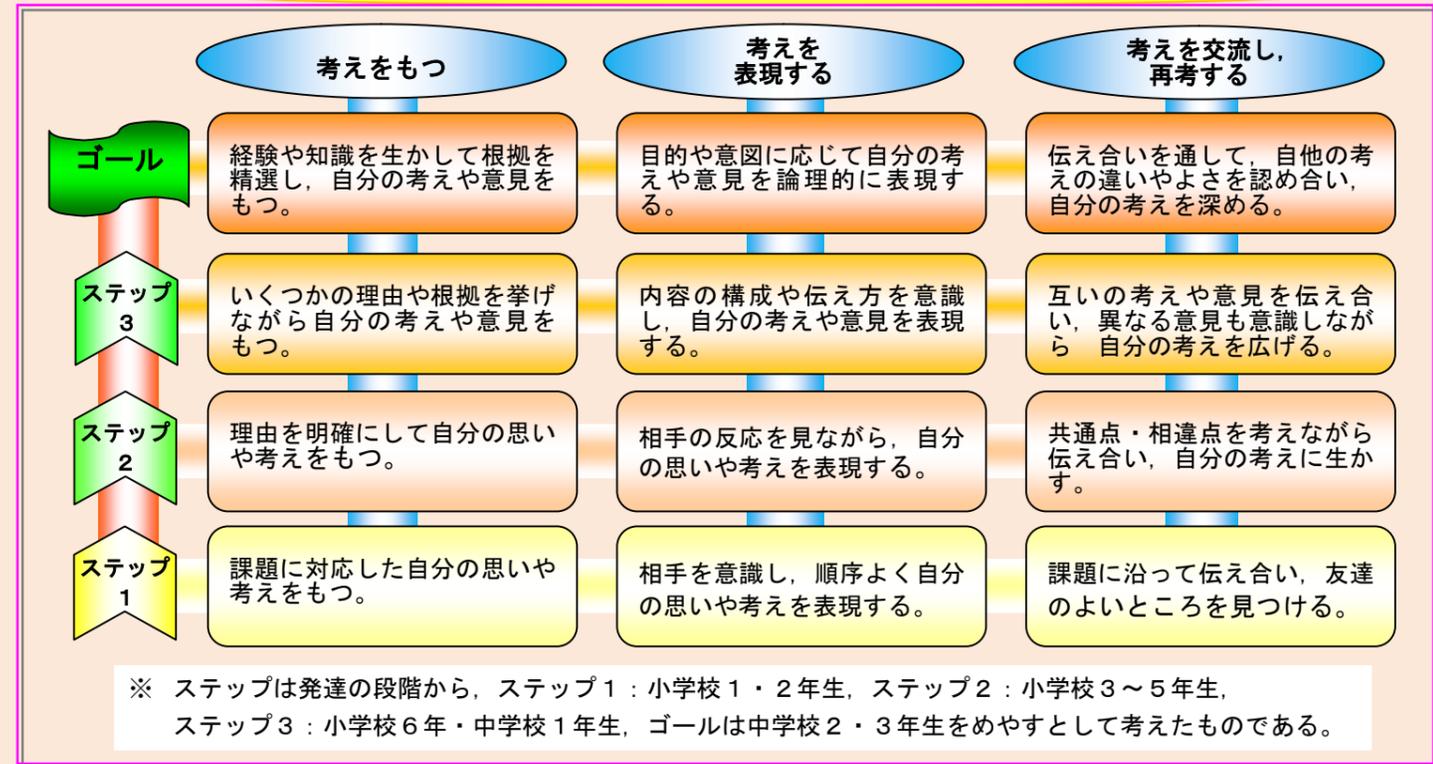
学習指導要領改訂における各教科等を貫く重要な改善の視点であり、国語科に限らずすべての教科等において、目標を達成するための手段・方策として「言語活動の充実」を図る。

### 参考：キーコンピテンシーの分類

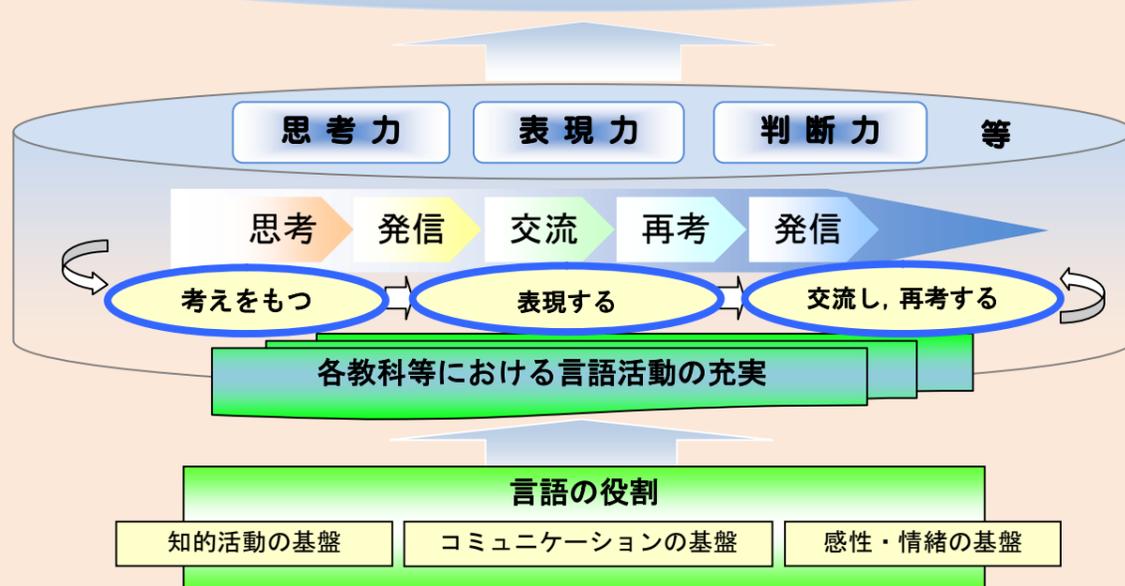
- 相互作用的に道具を用いる。  
A：言語・シンボル・テキスト  
B：知識や情報  
C：技術
- 異質な集団で交流する。  
A：他人と良い関係をつくる能力  
B：協力しチームで働く能力  
C：争いを処理し解決する能力
- 自律的に活動する。  
A：大きな展望の中で活動する能力  
B：人生計画や個人プロジェクトを設計し実行する能力  
C：自らの権利、利害、限界やニーズを表明する力

## 言語活動を通して応用力を身に付けた子供の姿

→ 子供版「学びのステップアップシート」として授業で活用 ※P5 参照

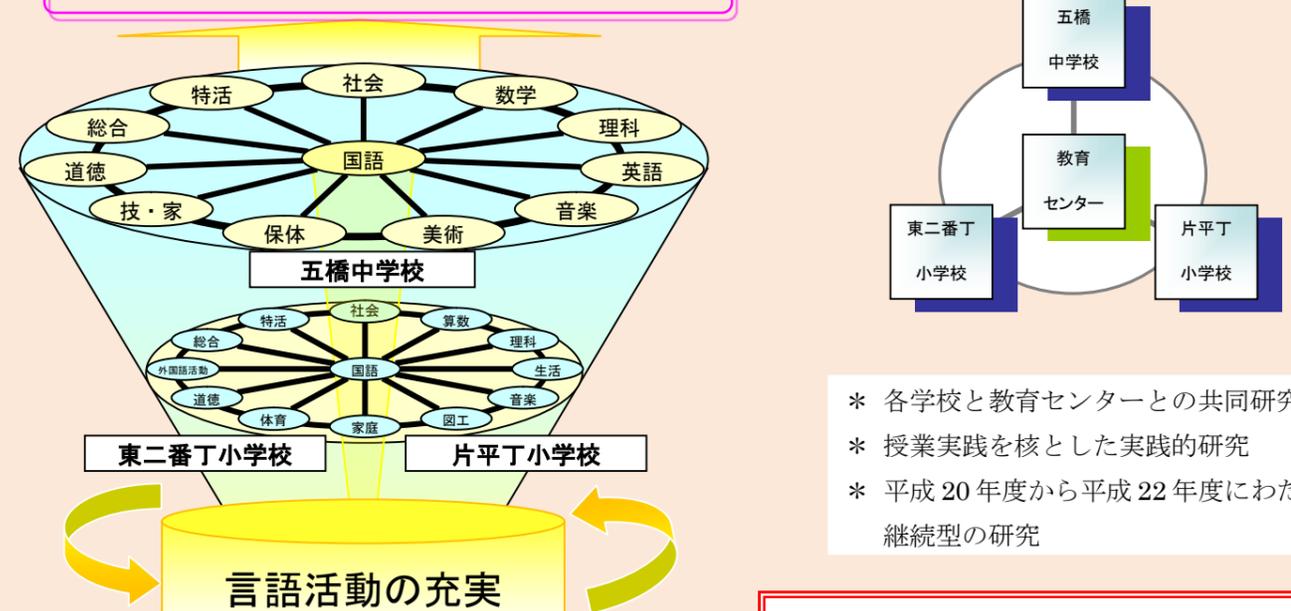


## 応用力をはぐくむ授業の創造



研究テーマ図

## 小中9年間で育成を目指す子供像



- \* 各学校と教育センターとの共同研究
- \* 授業実践を核とした実践的研究
- \* 平成20年度から平成22年度にわたる継続型の研究

### <平成22年度公開研究会予定日> 御参加ください!

- ・五橋中 : 平成22年11月9日(火)
- ・東二番丁小 : 平成22年10月22日(金)
- ・片平丁小 : 平成22年11月30日(火)

# 共同研究校：五橋中学校の取組

生徒一人ひとりの応用力（思考力・判断力・表現力等）をはぐくむ授業の工夫  
— 各教科等における言語活動の充実を通して — （2年次）

1年次→国語・数学・道徳

2年次→社会・理科・英語

3年次→各教科等

- 言語活動の視点
- ① 課題に対して自分なりに考えをもったり、深めたりすること。
  - ② 自分の考えを分かりやすく伝える（説明する）こと。
  - ③ 他者との交流を通して、自分の考えを再検討すること。

はぐくみたい応用力

応用力をはぐくむために各教科等で重視した学習活動

思考

発信

交流

再考

発信

継続して取り組める言語活動の具体

理科

- ・実験、観察をもとに、結果や考察をまとめる
- ・グラフ、図表なども用いて自分の考えを根拠をそえて伝える
- ・自分の考えを修正するなど

社会

- ・社会的事象との出会いから学習課題をつかむ
- ・調べたことを書いたり話したりして表現する
- ・社会的事象の意味について互いに伝え合い、多面的・多角的に考えを深める など

英語

- ・既習事項を活用し、テーマにそった英文を話す、書く
- ・内容構成や表現方法等を工夫しながら、考えや思いを発表する
- ・他の発表から自分の発表を振り返り、練り直す など

◇生徒の変容

- ・身近なものと結び付けて事象をとらえられるようになってきた姿
- ・国語で学んだこと（話し方、考え方、話し合い）をはかに生かそうとする姿
- ・他者の意見から自分の考えを深めようとする姿など

◇次年度に向けて

- ・継続研究
- ・「交流」を充実させるグループ編成の工夫
- ・「再考」と「内面（自分）への再発信」
- ・「目指す子供像」の具現化

# 言語活動の充実を図った実践例

## 1 英語

単元名：「わたしの夢」（2年）、「道案内-乗り物での行き方を尋ねる・教える」（3年）

ねらい：○単元構想における実践 発表集団の工夫 学年や経験、発表課題（テーマ）に合わせて

○ Multi Plus や Speaking Plus を生かした活動 日本語を軸に考える 内容構成、語彙の選択、構文の活用 など

「わたしの夢」 2年	段階	「道案内-乗り物での行き方を尋ねる・教える」 3年
将来なりたいたいもの、行ってみたい場所、挑戦したいことをテーマにしたスピーチ。 小集団で発表する。		乗り物を使った道案内をより実践的な場面を想定し行う ALT との対話形式での発表。
○モデル文で学習内容を確認する。 新出英単語、「～したい」の表現、内容の構成	受信	○モデル文で学習内容を確認する。 ・道案内の定型表現 ・新出英単語
○テーマに沿って、日本語でスピーチ原稿を書く。 ○スピーチ原稿の作成（英作文）	思考 発信	○仙台市内の地図や路線図の情報をもとに、市内の主要な場所への案内を練習する。 ○エリアを宮城県内に広げ、同様の練習を行う。 地図や路線図を見ながら書いて確認
聞き手の立場になり、語彙や構成を工夫（書き手の自己満足にならないように）		
○グループ（4～5人）で発表① → 構成メンバーを変えて発表② 1回目の発表後、2回目の発表を意識させ、自分自身の発表を見直す	交流 再考 発信	○ALT が旅行者を装い、生徒に道案内を求める。生徒は抽選で順番に指名され、全体の前で ALT との1対1の対話で道案内を行う。 他の発表の様子から、使っていた表現を学び、自分の発表に生かす
○2回の発表を通して、最も印象に残っている友達のスピーチを簡単にリポート（リライト）する。		

## 2 社会

単元名：「近代日本の歩み」（本時4/5時間 新しい外交関係を求めて）2年

ねらい：○資料をもとに、岩倉使節団について調べ、明治新政府の外交の目的について理解する。

○征韓論をめぐる対立から、日本の朝鮮に対する姿勢について多面的・多角的に考える。

学習活動・発問等	指導上の留意点
岩倉使節団には、どんなねらいがあったのだろう。 ○資料（写真、年表、地図等）から使節団の目的について考える。 ○使節団が帰国後に進めた政策について考える。	<b>社会的事象の意味について、資料を正確に読み取る。</b> ○当時の使節団が、条約改正を目指して、多くの時間と努力が必要であったことを想像させる。 ○新政府の外交政策について資料をもとにとらえさせる。 ○「征韓論」で対立した両者の意見をそれぞれの立場で考え説明できるようにする。
日本と朝鮮との関係をめぐって対立した西郷隆盛と大久保利通の対立について考えよう。 ○資料をもとに、自分の考えをもつ。	○机間指導を行い、考えをもたない生徒には具体的に助言する。
<b>資料等から見出した複数の社会的事実を関連付ける</b> ○自分の考えをまとめ、根拠を明確にしながら、相手に分かりやすく伝える。 ○グループで意見交流を行い、多様な考えがあることを知る。	<b>自分の考えを書かせ、考えを述べる時はその根拠も言えるように働きかける。</b>
○自分の考えを見つめ直す。 ○全体で話し合う。	○日本と朝鮮との関係について押さえる。

## 3 理科

単元名：「大気圧」（「身のまわりの現象」1分野上）1年

ねらい：○身近な事物・現象について観察・実験を通して、光や音の規則性や力の性質について、理解するとともに、これらの事象を日常生活と関連付けて科学的に見る見方や考え方を養い、光・音・力の働きに対する興味・関心を高める。

学習活動	指導上の留意点
演示実験1：新聞紙で押さえた割り箸を割る実験 ○仮説を考える。	多様な考えを引き出す。
課題：空気に重さがあることを調べ、それにより力が加わっていることを知る。	
○本時の課題を把握する。 ○班での話し合い（自分の考えを伝える。）	
実験1：空のペットボトルと空気を詰め込んだペットボトルの重さの違いを見る。 実験2：注射器の中に発泡スチロール（立方体）を入れピストンを押して変化を見る。	
○実験の結果をまとめる。（考察） ○班での話し合い。（考えの確認・修正） ○見出した考えを一般化する。 ○まとめた考えを発表する。	○実験の結果を正しく捉えさせる。 ○結果や考察をもとに考えを修正させる。 ○生活体験と併せて、科学的な概念をまとめさせる。 ○考えを確かにする検証実験をさせ、気付かせる。
検証実験：袋菓子を透明容器に入れ、容器の空気を抜いて変化を見る。	
○空気を除くことにより、周りからの力が弱くなることを体感する。（山に登ったときの菓子袋の変化体験から）	

# 共同研究校：東二番丁小学校の取組

進んで話し合い学び合う児童の育成  
— 「教科を貫く言語力」の育成を目指して —

言語活動の充実→「話し合う力」

国語科→各教科等（算数・理科・図画工作・生活・総合・道徳）

## 共同研究と個人研究の融合化

- 共同研究のテーマ・個人研究テーマの設定
- 目指す児童像の設定
- 個人研究テーマ発表会（5月）
- 個人研究中間発表会（8月）
- 個人研究発表会（2月）
- 共同研究の歩みと個人研究論文執筆

## 授業力向上へ向けて

- 毎週木曜日を「研修日」とする。
- 毎週「研修日」に、研究授業を実施する。
- 授業検討会では、以下のことを行う。
  - ①授業検討会（30分）  
「研究授業参観シート」を活用し、短時間で率直に意見交換を行う。
  - ②翌週の模擬授業（30分）

## 全校的な取組について

- 毎週月曜日の養賢学習に「話す・聞くスキル」を使用→音読・暗唱・滑舌等
- 全校朗読朝会→養賢学習の成果を全校児童の前で発表。  
※養賢学習とは基礎学力の定着を目指して15分間行う国語・算数のプリント学習。
- 百人一首やいろはがた等→伝統的な言語文化に親しむ。
- 他学年との交流（野外活動報告会・ペープサート劇・寸劇・絵本の読み聞かせ）  
→相手意識を高める。

## ◇授業検討会

- 16:05～授業検討会  
①自評(2分～3分)  
②検討  
・研究授業参観シートの活用  
16:35～翌週の模擬授業  
①授業での提案(2分～3分)  
②言語活動の充実の場面に限定

## 研究の成果と課題（○成果、●課題）

- 校内研究システムの構築ができた。
- 言語活動を充実させた授業づくりを実施したことで、生活の中でも「なぜ」「どうして」と聞き返す場が増え、語彙が豊かになり、単語で話す子が少なくなった。
- ペア学習やグループ学習の中で話し合いがスムーズにできる。
- 発言が端的になり、理由の中に根拠をはっきりさせながら発言できる。
- 友達のことを聞き自分の考えを深めることができる。
- キーワードメモを見ながらスピーチをすることができる。
- 社会科や理科等で自分の考えや理由を整理して書ける。
- 学年に応じた話し方・聞き方・話し合い方の型を示し、系統的に指導していく。
- 各教科等のどの場面でどのような言語活動が生かせるかを明らかにしていく。

指導過程	
◇共同研究の視点について	
視点1 国語科授業の開発	
視点2 教材・教具 ・言語活動	
視点3 各教科等との連携	
◇自由記述◇（感想・参考にした点・要望など）	
◇辛口コメント(代案など)	

図 研究授業参観シート（辛口コメント入り）

## 言語活動の充実を図った実践例

1 国語（3年）

単元名 分かりやすく書こう 教材名 「おもしろいもの、みつけた」

本時のねらい：様子を伝えるための文章の書き方を理解することができる。



段階	主な学習活動	考える	指導上の留意点
導入	様子を正しく、伝えるには、どのように文章を書いたらよいでしょうか。	思考 発信 交流 再考	<ul style="list-style-type: none"> <li>サルの写真4枚（A B C D）を掲示する。</li> <li>クイズ形式の問題を取り入れることで、児童の学習意欲を高める。また、答えを求めるための話し合いを行いながら、考えを深めさせる。</li> <li>基本話型                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒントの言葉と写真の内容から自分がその写真を選んだ理由を、根拠を明らかにして説明させる。（基本話型の活用）</li> <li>・様子を伝えるための文章の書き方を、確認する。</li> </ul> </li> </ul>
展開	ヒントの言葉が、どの写真を説明しているかを当てます。三つのヒントの言葉にぴったり当てはまる写真はどれでしょうか。		
終末	「私は、□の写真が言葉に合っていると思います。理由は、～だからです。」 Cの写真の様子が正しく伝わるように文章を書きましょう。		

2 道徳（4年）

主題名 あきらめないでやりとげる<1-(2)>

資料名 「ピート・グレイから学ぶ」（自作資料）

本時のねらい：自分でやろうと決めたことに積極的に取り組み、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。



段階	主な学習活動	考える	指導上の留意点
導入	あなたの夢や目標は何ですか。夢や目標の実現のために何をしていますか。	思考 発信 交流 再考	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の夢について話し合い、学習への意欲付けをする。</li> <li>互いの考えと理由を話し合わせ、ピートが大リーガーになることがいかに大変なことかに気付かせる。</li> <li>書く活動                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ピートは一体どうやって野球をやったのだろうか」と発問し、具体的にピートがどのようにして野球をしたのかについて考えさせ、努力の大きさに気付かせる。</li> <li>・ピートの努力を自分の夢や目標達成にも生かしていく気持ちをもたせる。</li> </ul> </li> </ul>
展開	6歳の時の事故でピートは右腕を失ったのです。ピートは、大リーグへの夢をあきらめたのでしょうか。あきらめなかったのでしょうか。自分の考えと理由をノートに書きなさい。		
終末	「ぼくは、あきらめたと思います。どう考えても片腕だけで野球はできないと思ったからです。」 夢や目標の実現のためにこれからどうしていきたいですか。ノートに書きなさい。		

# 共同研究校：片平丁小学校の取組

伝え合う力を育てる指導の工夫  
— 説明する力を育てる国語科の実践を通して —

言語活動の充実→「説明する力」

国語科→各教科等（算数・社会・道徳）

## 研究の内容

- 目的による説明の表現様式をベースに具体化した力を7つに分類。
  - ①記録する力
  - ②質問・応答する力
  - ③取材・構成する力
  - ④感想・意見を述べる力
  - ⑤連絡する力
  - ⑥説明・報告する力
  - ⑦紹介する力
- 「身に付けさせたい力」の能力系統表（表1参照）  
各学年部で重点的に身に付けさせたい力と繰り返し活用させながら定着を図りたい力

## 校内研究の視点

○共同研究テーマとの関連

- (1) 「説明する力」を高める学習活動を工夫する。
- (2) 単元ごとに身に付ける力を明らかにし、年間指導計画を見直す。
- (3) 各教科等において、国語科で身に付けた力を意識し、活用を場を工夫する。

## 成果と課題

- 自分の考えをもつ手だて（思考）  
考える視点を与えたり、モデルを示したり、聞き合うときの観点を提示したりしたことにより児童は目指す方向を理解しやすくなり、教師も指導のポイントを明確にすることができた。
- 発信・交流・再考の手だて  
国語科だけでなく各教科等でも効果的に取り組んでいく。「聞くこと」を重視したい。
- 系統性を意識した指導の必要性  
「説明する力」の年間指導計画を見直したことによって、どんな力を付けるとよいか明確になり、指導のポイントを再確認し、6年間の系統性を意識できた。  
「必要な事柄を収集したり、選択したりすること」「事象と意見・感想を区別し伝えること」「話の中心が分かるように筋道を立てて伝えること」は定着が引き続き課題とされるところである。

## 身に付けさせたい力

説明する力	身に付けさせたい力	低	中	高
1 記録	話を聞いて書く。	○	◎	
	聞き取ったことを短い言葉で書く。		○	◎
	話の流れや中心が分かるように記号を使う。			◎
2 質問・応答	相手に分かるように尋ねたり、答えたりする。	◎		
	質問や疑問を相手に分かりやすく尋ねる。		○	◎
	質問や疑問に対して、相手に分かりやすく答える。		○	◎
3 取材・構成	必要な事柄を収集する。	◎		
	内容によって分類する。	○	◎	
	必要な事柄を収集したり、選択したりする。		◎	○
	必要な事柄を整理する。			◎
	簡単な組立てを考える。		◎	
4 感想・意見	感じたことを伝える。	◎		
	感じたことを交えながら、自分の意見を伝える。		◎	
	事象と感想・意見を区別し、伝える。			◎
5 連絡	内容を落とさず伝える。	◎		
	内容を落とさずに、話の中心を伝える。		◎	
	音声・文字言語以外の媒体も使い、効果的に伝える。			◎
6 説明・報告	事柄の順序を考えながら伝える。	◎		
	話の中心が分かるように、筋道を立てて伝える。		◎	
	話の中心が分かるように、資料を使い筋道を立てて伝える。			◎
7 紹介	事柄の順序を考えながら、紹介する。	◎		
	事柄のまとまりを考えて、分かりやすく紹介する。		◎	
	対象の特徴について事例を上げて紹介する。			◎

◎その学年部で確実に身に付けたい事項  
○学習経験として蓄積させたい事項  
※青字・○部分は今年度の改善点

## 言語活動の充実を図った実践例

考える

### 1 国語科（2年生）の取組 単元名：ともこさんはどこかな（本時3/4）

段階	学習活動・主な発問	指導上の留意点
思考 発信 交流	導入 ○ すぐに見つけてもらえるような迷子探しのアナウンスを考えよう。	○ 特徴が分かる言葉や項目を思い出させる。 <b>付箋の活用</b>
	展開 ○ 絵の中から迷子にする子を選び、アナウンスの内容を考えて書く。 ○ アナウンスの練習をする。 付せんメモをもとに、どんなアナウンスをしたらよいか考えよう。 ○ 少人数グループごとに問題を出し合う。 迷子の人を探すために、大事なことを考えて、なるべく少ないヒントで当ててもらおう。	○ 付せんのメモをもとに、特徴的なものや、取り上げる順序を考えさせる。 <b>グループの活用</b>
	まとめ ○ 知らせたいことの内容をはっきりさせて話している児童に発表をさせる。	

### 2 国語科（4年生）の取組 単元名：「伝え合う」ということ（本時10/15）

段階	学習活動・主な発問	指導上の留意点
思考 発信 交流 再考	導入 ○ 発表のよい例・悪い例を聞いて、発表に見通しをもつ。	○ 知らせたいことの内容が分かるモデルと分かりにくいモデルで、発表の仕方をとらえさせる。
	展開 ○ 聞き合う観点をもつ。 ○ 発表の練習をする。 ○ グループで聞き合い、アドバイスをし合う。 めあてを考えながら、お互いの発表を聞き合いましょう。	○ 聞き合う時の観点を確認する。 ① 知らせたいことの内容が分かったか。 ② 文のつながりはどうか。 ③ 難しい言葉はないか。 ④ 説明の長さは十分か。 ○ 相手の話を最後までしっかり聞き、アドバイスカードに記入させる。 ○ 机間指導をしながら、発表させたい児童を選んでおく。
	まとめ ○ 知らせたいことの内容をはっきりさせて話している児童に発表をさせる。	<b>モデルの活用</b>

### 3 算数科（3年生）の取組 単元名：かけ算のしかたを考えよう（本時：3/14）

段階	学習活動・主な発問	指導上の留意点
思考 発信 交流	つかむ ○ 問題をつかむ。 1まい23円の色画用紙を3まい買うと、代金はいくらですか。	○ 前時までのように1回だけの九九の適用では答えが求められないことに気付かせる。
	も高 ○ 23×3の計算方法を考える。 <b>時間の確保</b>	○ ノートに式や言葉、図等を使って、自分の考えを書かせる。
	め合 ○ 考えたことをペアで発表し合う。 ○ 考え方を説明し、全体で検討する。	○ 交替で自分の考えを相手に説明させる。 ○ 自分と同じところに注意して聞かせる。 <b>グループの活用</b>

それぞれ資料は Web ページに掲載しています。御利用ください。

## 学習プロセスの重視



応用力をはぐくむために重視したい学習プロセスとして、  
＜思考→発信→交流→再考→発信＞を指導の段階に入れる。

### 概念規定

思考	観察や記憶によって頭の中に蓄えられた内容をいろいろに関係付け、新しい関係を創り出すこと。
発信	問題解決を促進するために、自分の考えを順序立てたり系統立てたりして自分の考えを言語に表すこと。
交流	言語を介して、自分と他者が互いに行き来し、交わること。
再考	問題解決を行う場面や交流などを通して、既有的の知識や経験を基に関係付けを行いながら知識の再構築や新たな関係性を見出したりすること。
発信	他と考えを交流し再考することで、振り返って考え直したことなど再構築した自分の思いや願いを発すること。

## 小中9年間で育成を目指す子供像

授業において＜考える＞＜表現する＞＜交流し再考する＞場面を重視し、小中学校9年間を通して育成を目指す「言語活動を通して応用力が身に付いた子供の姿」をゴールイメージとした子供像である。児童生徒の言語活動の質的な転換点を段階性のある具体的な子供の姿で指標を記述したもの（前頁参照）であり、子供版「学びのステップアップシート」として児童生徒に配付し、授業においても活用を図る。（P1参照）

### 学びのステップアップシート

	考えをもつ	考えをあらわす	考えを聞いて、ふがめる
ゴール	経験や知識を生かして、根拠の中からすぐれたものを選び、自分の考えや意見を述べようとする。	目的や意図に応じて、自分の考えや意見を筋道を立てて表現する。	伝え合いを通して、異なる考えを認め合い、自分の考えを深める。
ステップ3	いくつかの理由や根拠を挙げながら、自分の考えや意見を述べようとする。	相手にとってわかりやすい内容や伝え方を意識し、自分なりの考えを表現する。	伝え合いを通して、自分と違う考えに気付いて、自分の考えを見直す。
ステップ2	理由をつけて自分の考えや意見を述べようとする。	誰にでも分かるように考えを表現する。	友達や先生の考えを聞いてよりよい考えになるように見直す。
ステップ1	めあてにあった自分の思いや考えをもつ。	誰に伝えるのかを考えて順序よく表現する。	めあてに合わせて発表し合い、友達や先生の考えを聞いてよりよい考えになるように見直す。

## 国語科と他教科との連携

- 国語科で学習した言語活動を他教科等で生かす。
- 他教科等で内面的な側面を、国語科ではそれを学習材として言語活動を展開する。
- 他教科等での言語活動を国語科の学習材として生かす。

記録	要約	説明	論述	発表	討論	解説	鑑賞
スピーチ	話し合い	報告	紹介	質問	助言	対話	
意見	引用	説得	批評	感想	交流	比較	応答
提案	連絡	推薦	メモ	……			

言語活動例

国語科の言語活動例 小中内容の系統表

	小 低学年 1,2年	小 中学年 3,4年	小 高学年 5,6年
A 話すこと・聞くこと	ア 出来事や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 イ 尋ねたり応答したりグループで話し合ったりして考えを一つにまとめること。 ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要に応じて身振りや手振りなどを用いて伝えたりすること。	ア 出来事や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 イ 学級全体で話し合ったりして考えをまとめる。意見を述べ合ったりすること。 ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話し合ったりすること。	ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。 イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。 ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。
B 書くこと	ア 想像したことなどを文章に書くこと。 イ 経験したことや観察したことを記録する文章などを書くこと。 ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 エ 紹介したいことをメモにまとめる。文章に書いたりすること。 オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。	ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をついたり、物語を書いたりすること。 イ 疑問に思ったことを調べ、報告する文章や日記の学級新聞などに表したりすること。 ウ 収集した資料を効果的に使い、説得する文章などを書くこと。 エ 目的に合わせて依頼状、	ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をついたり、物語や随筆などを書いたりすること。 イ 自分の課題について調べ、意見を述べた文章や活動の報告したり文章などを書いたりすること。 ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

## 教育活動全体で取り組む

言語活動の充実を、各教科等における授業とともに、学校、家庭、地域を通じた読書活動の一層の充実や学校図書館の活用や学校における言語環境の整備を含めて学校の教育活動全体で取り組む必要がある。

### ＜言語環境の整備＞

- ・教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと。
- ・校内の掲示板やポスター、配布物において用語や文字を適正に使用すること。
- ・校内放送は適切な言葉を使って分かりやすく話すこと。
- ・適切な話し言葉や文字が用いられた教材を使用すること。
- ・教師、児童生徒相互の話し言葉の適正化。
- ・集団の中で安心して話ができる好ましい人間関係を築く。

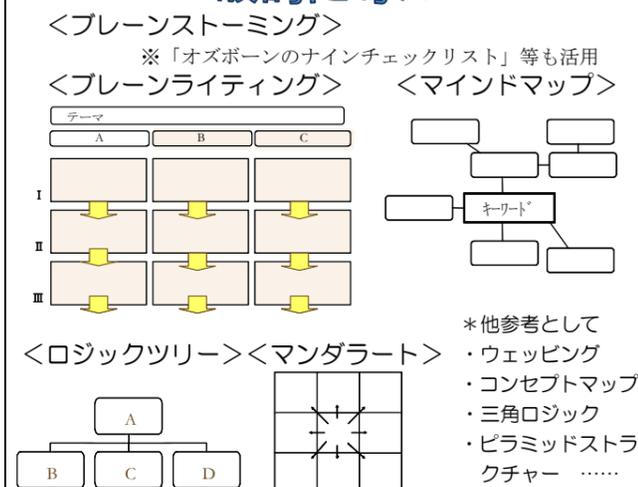
時代や社会の要請	学校の教育目標	生徒の実態
・憲法、教育基本法、学校教育法、中教審答申、学習指導要領、仙台市標準学力検査、全国学力・学習状況調査、仙台市の教育施策	○心身ともにたくましい人間の育成。 ○物事を深く考え、判断する人間の育成。 ○思いやりがある人間の育成。	・明るく素直 ・自主性がやや弱く、指示を待つ傾向がある。 ・保護者や地域等の願い ・思いやりのある子 ・自分の考えをもつ子
各教科等における言語活動	言語活動を通して目指す生徒像	各教科における言語活動
・自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるように工夫すること。	・経験や知識を生かして、根拠を精選し、自分なりの考えや意見を論理的に表現する生徒。 ・伝え合いを通して、自他の考えの違いやよさを認め合い、自分の考えを深める生徒。	・持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を 探求させ、自えをまとめる。
総・問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同したりして問題を解決し	各学年の学年経営（指導の重点）	数と式」「B図形」「C開図」及び「D資料の活用」の学習やそれら

### 言語に関する学校の全体像

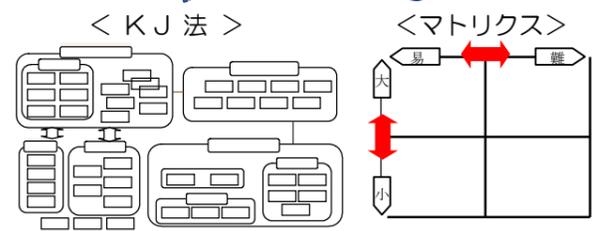
## 「考える」活動の重視

「自分の考えをしっかりとつ」ことは、その後の「表現する」「交流し再考する」学習活動を支える基盤となる。「考える」という活動をより充実させるための効果的な手だてを講じ、指導に生かすことが求められる。

### 拡散的に考える



## 収束的に考える



## 演繹的・帰納的に考える

＜演繹的＞  
……という考え方から、具体的には……のようなことがいえます。  
……の法則から、……という問題を……のように解決できます。

＜帰納的＞  
……の資料から、一般的に……といえます。  
……の結果から、……という法則を導き出すことができます。

◆ 教師が児童生徒の思考をつなげよう！  
\*他の学習者の考えに耳を向けさせる  
「～さんの考えをもう一度言ってみて」  
\*他の学習者の考えに向き合わせる  
「～をどう思う？」「～さんとどこが違う？」「アドバイスは？」  
\*発問で向き合うことを求める  
「今～さんはこう言っていたけど、自分の考えを述べてみて」

## 「表現する」活動の重視

・表現活動：音声言語、文字言語、非言語… **話す・書く**

報告する	記録する	説明する	質問する	相談する
主張する	依頼する	勧誘する	紹介する	解釈する
禁止する	紹介する	整理する	命令する	批判する…

- ①理由を明確にして…
- ②例を挙げて…
- ③比喻を使って…
- ④自分の経験に基づいて…
- ⑤資料を使って視覚的に…
- ⑥表やグラフを用いて…
- ⑦教材の記述に基づいて…
- ⑧パーセンテージや数値で…
- ⑨専門用語や概念等を用いて…

\*授業で表現活動を行う際の留意点

**目的：**表現する意味や必要性を自覚させる。  
**内容：**表現する中身をしっかりとらせる。  
**対象：**自分自身も含め表現する対象や相手を意識させる。  
**方法：**相手に応じて表現の仕方を工夫させる。  
**スキル：**表現するときの多様な方法や技能を身に付けさせる。

◆ 授業改善として

- ・目指す姿を明確にした学習過程が考えられる。
- ・児童生徒に対する指示が明確になる。
- ・児童生徒が言語を意識しながら能力をはぐくむことができる。
- ・児童生徒の表現活動を評価しやすくなる。

## 本年度研究のまとめ

- 成果 ●課題
- 五橋中学校区として、新たに東二番丁小学校、片平丁小学校の2校を加えた継続型の研究態勢を構築することができた。
  - 研究主題の目指すものについて合同研修会を通して共通理解を深めることができた。
  - 効果的な言語活動の充実を図る授業づくりについて、見通しを明らかにすることができた。
  - 「学びのステップアップシート」を活用しながら、9年間を通して応用力をはぐくむ子供を育てる授業づくりに取り組むこと。
  - 共同研究校における公開研究会等を通して、言語活動の充実を図った授業の充実・浸透に努めること。
  - 実践事例を収集するとともに、言語活動の充実を図ったカリキュラムを見直すこと。
  - 日常の指導において継続的に言語環境を整えるとともに、学校全体として取り組んでいくこと。

「各教科等の指導例」が Web 上にあります。授業づくりの参考として、御活用ください。  
<http://www.sendai-c.ed.jp/>

# 言語活動の充実を通して応用力をはぐくむ授業づくりのポイント

例：中学校  
技術・家庭(家庭)



各教科等において、教科の目標を達成させるための手段・方策として言語活動の充実を図りながら、応用力をはぐくむ授業づくりを実践しましょう。



題材：中学生の1日の献立

※	指導内容
思考	○ 何をどのくらい食べたか、ある休日の食事調査をする。
発信	○ 記録した結果をもとに、食品群に食品を <b>分類</b> する。 <b>考えをもつ</b>
交流	○ 日常食品の概量を一覧にした資料をもとに食べた量を書き出し、 <b>表を完成</b> させる。 <b>表現する</b>
再考	○ 作成した食事調査の結果をもとに、食品群別摂取量の目安と <b>比較</b> し、自分の食事の特徴について <b>意見交換</b> する。 <b>交流し再考する</b>
発信	○ 自分の食事の特徴について、今後の改善点をまとめる。

1 指導計画の中で、言語活動の充実を図ることが効果的である指導内容を取り上げましょう。

2 指導のねらいを明確にしましょう。

【指導のねらい】

食品群別摂取量の目安を用いて、中学生の時期の望ましい1日分の献立について考える。

3 指導内容に学習プロセスを組み入れましょう。



4 言語活動の充実を図る視点を取り上げましょう。  
＜考えをもつ＞＜表現する＞＜交流し再考する＞

話す・書く……

5 「考える」「表現する」活動を手だてとして考えましょう。  
※ マトリクス法(収束的思考) マインドマップ(拡散的思考)……

6 言語活動例に該当する学習活動を取り上げて充実を試みましょう。 ※**比較** **分類** ……

7 言語活動の充実を通して、応用力をはぐくんだ子供の姿をイメージしましょう。

※ 小中9年間で育成を目指す子供像「学びのステップアップシート」活用

互いの意見や考えを伝え合い、異なる意見を取り入れながら、今後の改善点に生かし、自分の考えを広げる。



## 言語活動例

記録	要約	説明	論述	発表
討論	解説	鑑賞	スピーチ	
話し合い	報告	紹介	質問	
助言	対話	意見	引用	説得
批評	感想	交流	比較	応答
提案	連絡	推薦	メモ	……

## 参考文献

- ◇講演資料 (H21.12.24:五橋中) 横浜国立大学 教授 高木展郎
- ◇各教科等における「言語活動の充実」とは何か  
横浜国立大学人間科学部附属中学校編 三省堂 2009
- ◇中学校国語科の指導計画作成と授業づくり 高木展郎・三浦修一  
明治図書 2009
- ◇創造力事典 高橋誠 日科技連 2002 等

## 教育研究紀要「教育はいま」第17号

発行日 平成22年3月31日  
 発行者 仙台市教育センター所長 熊谷 和彦  
 所在地 仙台市宮城野区鶴ヶ谷北1丁目19番1号  
 TEL 022-251-7441 (代表)  
 FAX 022-251-7486  
 Web http://www.sendai-c.ed.jp  
 代表E-mail info-web@sendai-c.ed.jp